

# あくせす news

第 192 号  
2018年 6月14日  
発行者  
呉市医師会病院  
地域医療福祉連携室  
あくせす

水無月に入り、毎日の空模様が気になる季節となりました。  
梅雨寒の日もありますが、吹く風には夏の匂いを感じる今日この頃です。  
さて、先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただき、ありがとうございます。  
引き続き一層のご利用・ご紹介のほど、よろしくお願いいたします。



## ポジショニング勉強会 報告

5月9日(水)、病院3階リハビリ室にて褥瘡対策委員会による『ポジショニング勉強会』が開催されました。講師に(株)モルテン社の前田さんを迎え、体位変換の手順や注意点などの基礎知識とピローやクッションを使用した正しいポジショニングの方法やポイントを指導していただきました。



実践では体圧を分散させるため、クッションで除圧し、体圧分散グローブで圧抜きをする一連の流れを学びました。圧抜きを行うことによりズレや摩擦を取り除くことができ、簡単に部分的な圧が楽になることを身を持って体験することができました。

当院には高齢で寝たきりの患者さんも多くおられます。今後も褥瘡や拘縮、変形予防のために適切なポジショニングを行えるよう取り組んで参ります。



体圧分散グローブは腕につけて患者さんの体の下に差し込むだけで、簡単に体にかかる圧を取り除くことができます。



色々な形のポジショニングピローとクッションを患者さんの姿勢に合わせて使い分けます。

### 大腸肛門病センター 出前講座のご案内

食生活を含めた多様な生活習慣やストレスなどにより、おしりやおなかのトラブルについての悩みを抱えている方が多くおられます。当院では大腸肛門病センターの医師およびスタッフが地域に出向き、大腸肛門病疾患に関する正しい知識、予防法や治療法について『出前講座』を行っています。

先生方のお知り合いでご興味のある方がおられましたらご案内のほど、よろしくお願い致します。

■お問合せ先■  
☎ 22-2321(代表) 担当:中間・風呂本  
※詳細につきましてはお気軽にお問合せ下さい。



### 放射線科 骨塩定量検査のご案内

当院ではD X A法により腰椎・大腿骨・前腕骨を臥位で撮影する骨塩定量検査を行っています。ご高齢の方・骨折後の方・閉経後の方などの骨粗鬆症の診断、投薬治療による骨量変化の経過観察などに是非ご利用ください。

また、当日検査のご依頼も対応しておりますのでお気軽にご連絡ください。



■予約受付先■  
☎ 25-7708 放射線科(あくせす)

★5月1日～5月31日★

※届出日数(地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
108.9人	52.6%	15.2日	75人	98人



# 大腸肛門病センター近況報告

院長・大腸肛門病センター センター長 中塚 博文



## 呉市医師会病院外科・大腸肛門外科の手術症例

期間：1986年7月～2018年3月 手術総数：7,599例  
 悪性腫瘍：1,666例(21.9%)、良性疾患：5,933例(78.1%)



悪性腫瘍	症例数	%	良性疾患	症例数	%
大腸癌	884	53.1	肛門疾患	3112	52.7
胃癌	477	28.6	ヘルニア	817	13.8
乳癌	118	7.1	胆石	578	9.7
甲状腺癌	45	2.7	虫垂炎	417	7.0
肺癌	42	2.5	イレウス	168	2.8
肝臓癌	34	2.0	胃潰瘍	80	1.3
胆嚢癌	31	1.9	気胸	40	0.7
その他	35	2.1	その他	713	12.0
計	1666	100.0	計	5933	100.0

## 直腸脱の病因と誘因



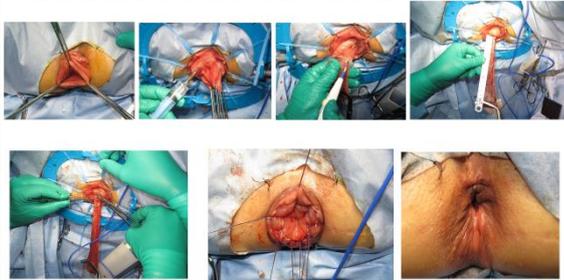
【直腸脱の病因】  
 1. 滑脱ヘルニア脱：直腸腔窩や直腸膀胱窩が深く、そこに腹腔内臓器が嵌り、直腸を肛門から押し出す  
 2. 重積脱：直腸の口側で重積が起こり、これが肛門管内を下降し脱出する

- 【直腸脱の誘因】
1. 直腸およびS状結腸の過長
  2. 深く下降した骨盤底の腹膜盲嚢部
  3. 骨盤底筋群の弛緩
  4. 肛門挙筋の離開
  5. 内外肛門括約筋の機能障害
  6. 直腸の仙骨前面への固定不良
  7. 直腸癌
  8. 便秘による過度のいきみ
  9. 骨盤臓器脱
  10. その他



● 完全直腸脱：全層が脱出、● 不完全直腸脱：一部の直腸や粘膜が脱出、● 不顕性直腸脱：直腸内で重積

## 80才、女性 5cm長の完全直腸脱 Delorme法



● 直腸粘膜の切除は脱出腸の約3倍

## 排便障害の主な治療法

1. 生活習慣の改善  
 食生活や排便習慣・姿勢、排便・骨盤底筋体操、運動
2. くすりの使用と選択や中止  
 内服薬(下剤、整腸剤など)、坐薬、浣腸
3. 手術治療  
 がんの切除、肛門狭窄、直腸脱、直腸癌、ストーマ造設  
 PEC(順行性洗腸療法)、SNM(仙骨神経刺激療法)
4. その他  
 バイオフィードバック、腸内環境(腸内細菌叢)を整える

平成26年7月に県下で初めて大腸肛門病センターを開設して約4年が経過したので近況を報告した。大腸内視鏡の検査が開設前に比べ約150件増の800件台/年になりEMR・ポリペク等の治療数も増加し、それに伴い大腸癌の外科手術例も増えてきている。また、肛門の手術は痔核・痔瘻・裂肛の三大疾患以外に直腸脱が増えている。そこで、直腸脱の病因や誘因と当院における治療方針について詳しく報告した。

直腸脱は高齢の患者さんに多く認められ、手術術式としては会陰側アプローチと腹腔内アプローチに分かれるが、比較的再発率の高い疾患である。当院では最近、会陰側からはDelorme法を、腹腔内アプローチは腹腔鏡下直腸固定術を第1選択にしている。それぞれの術式の特徴や手技について術中写真と動画を用いて紹介した。

排便障害外来は平成26年10月から開始しているが、平成29年(2017年)に慢性便秘と便失禁の診療ガイドラインが発表され、経験則だけでなく客観的データに基づいた診療指針が示された。排便に問題を抱えている患者さんは高齢者が多く、当院では排便造影検査や肛門内圧検査を行い、できるだけ生活習慣の改善や薬剤による保存療法を優先しつつも必要時には外科的処置によりQOLの向上を目指して取り組んでいる。ストーマ外来は平成16年の開設以来14年が経過し、皮膚・排泄ケア認定看護師やストーマ認定師の資格を取得した看護師らが対応しているが、オストメイトの高齢化や認知症の患者さんが増え、介護施設との連携や在宅でのストーマケアの援助に力を注いでいる。

今後も、一人でも多くの患者さんに安心して大腸肛門疾患の検査治療を受けていただけるよう努めますので、ご紹介の程よろしく願います。

- \* 大腸・肛門外科外来 月曜日～金曜日(午前)
- \* 排便障害外来 月曜日・水曜日(午後)
- \* ストーマ外来 毎月第2・第4金曜日(午前)
- \* おしりの無料相談 毎月第1水曜日(午後)

【お問合せ先】あくせす TEL32-7576

